

生き生き

NO.100 令和3年11月号 岡崎市現職研修・生活科・広報部発行

「町たんけん」 ～「？」を「！」にする力を育てるために～

生活科部長 中西 勉

生活科が教科としてスタートしたのは、今から30年前の1992年（平成4年）でした。それ以来、岡崎でも着実に生活科の実践が積み重ねられてきました。そして、この生活科部報「生き生き」は、生活科の最先端の情報を提供したり、各校の実践の様子を伝えたりして、岡崎の生活科の充実と発展を支える大きな役割を果たしてきました。そして、この度、「生き生き」は、大きな節目となる100号を数えるに至りました。「生き生き」の創刊以来、諸先輩方が大切にしてこられた生活科への思いを受け継ぎながら、今後もさらなる内容の充実を図っていきたいと思います。

さて、紅葉が進み、辺りが鮮やかに彩られた11月19日（金）に、本校の2年生が「町たんけん」に出かけました。当日は、PTA「ワンチーム活動」のボランティアの保護者の方々と一緒に、町のお店などを訪問して聞き取りを行いました。この「町たんけん」に向けて、私は2年生の担任に、現行の学習指導要領で新たに追加された「（前略）相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする」を意図して指導するとよいと助言しました。また、2年生の子供たちには、「お店の人に質問をするときは、自分の予想を言って、それを確かめるように聞くといいよ」とアドバイスをしました。こうして、私は「町たんけん」での子供たちの頑張りを、わくわくしながら待つことにしました。

当日、子供たちは、「町たんけん」からとても満足した表情で戻ってきました。そして、「町たんけん」の振り返りには、こんなすてきな文章がありました。

「ペットショップで、『犬の中で一番うれているのは、ポメラニアンとチワワだともおもいますが、どうですか』ときいたら、『そうですね。そのとおり』と言ってくれました。さらに、『黒い犬と白い犬だと、白い犬のほうがおいしいとおもいますが、どうですか』ときいたら、『そうですね。黒い犬は、目がどこにあるかわからないから、インスタばえしないので、白い犬のほうがよくうれますよ』とおしえてくれました」

この振り返りからは、自ら予想し、考え、質問して、自分の力で「？」を「！」にしていく子供の姿がよく見取れます。子供の力を伸ばすためには、「町たんけん」を行う前に、いかに子供のモチベーションを高め、子供自身が自分は何を確かめに「町たんけん」に行くのかを明確に見据えているようにすることが大切です。時間はかかりますが、丁寧な事前指導があって初めて「町たんけん」は成功します。子供の「？」を「！」にする力を育てるために、私たちは教育のプロとして、その努力を大切にしたいですね。

